富岡製糸場と絹産業遺産群」と連携した シルクカントリー桐生の推進について（改訂継続）

群馬県では「富岡製糸場と絹産業遺産群」が2014年6月に世界遺産登録されました。当初2004年には絹産業の養蚕、製糸、織物、流通という一連のストーリー性を持った取り組みで10物件の暫定リストとともにスタートしましたが、外国専門家やイコモス等の意見を尊重し「平泉」や「富士山」の例も踏まえて分かりやすく4構成資産（①富岡製糸場②高山社跡③荒船風穴④田島弥平旧宅）に絞り込まれての登録となりました。

桐生市は構成資産から外れていますが、日本の近代化に大きく貢献し世界に進出した民間の繊維産業都市として官営の富岡と対比される重要な絹文化、絹産業の集積都市であります。

現状は富岡の登録となりましたが、いずれは富岡と共に絹文化を象徴する世界遺産都市としてユネスコ精神を広く啓蒙する拠点都市となる普遍的価値を持っていると言えます。

桐生市からの提案によりまして、世界遺産と本市を結ぶ旅行コースも商品化されましたが、引き続き「桐生新町重要伝統的建造物群保存地区」やノコギリ屋根工場などの県内最多を誇る貴重な絹産業遺産を核に、2020年群馬デスティネーションキャンペーンにおける観光誘客のための周遊コースを策定するなど、富岡製糸場と連携した織物の街・桐生を全国に発信するシルクカントリー桐生を推進すると共に、富岡製糸場への来訪者増につながる各種施策の構築を要望いたします。

桐生市からの回答

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録は、本市の観光振興にとって絶好の機会と捉え取り組んできております。県が登録するぐんま絹遺産では、91か所のうち県内最多の18か所があり、本市の絹遺産は大変注目されています。また、文化庁が「かかあ天下 - ぐんまの絹物語 -」をテーマとした日本遺産では県内13の構成資産のうち6件が本市から選定されており、これら絹遺産を活用し産業観光の推進や同じく日本遺産の資産を保有する足利市と連携したヘリテージツーリズムの推進に取り組んでおります。

令和2年に開催される、国内最大級の観光キャンペーンである「群馬デスティネーションキャンペーン」を最大限活用し、世界遺産と関連性が注目される貴重な産業遺産や絹産業遺産を核に、観光誘客による地域経済の発展に努めていきたいと考えております。

[回答担当] 産業経済部観光交流課観光・物産係

絹遺産をはじめとする産業遺産は「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されたことによりその重要性が全国的に認識され、織物産業を基盤に発展してきた本市においても、その歴史や文化を今に伝える近代化遺産が数多く存在し、現在はその重要性と共に「まちの個性」としても注目されております。

今後もその重要性を的確に捉え、指定や登録など文化財保護制度による保存と活用の推

進について、世界遺産とともに文化庁が認定した日本遺産「かかあ天下 - ぐんまの絹物語 - 」や県が登録する「ぐんま絹遺産」と連携し、また、観光に係る組織・団体と連携を図りながら各種施策の一助となるよう努めてまいりたいと考えております。

[回答担当] 教育委員会管理部文化財保護課文化財保護係